

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970201240		
法人名	医療法人社団 隆成会		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地	栃木県足利市多田木町1190		
自己評価作成日	令和元年11月1日	評価結果市町村受理日	令和2年2月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和1年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは以前から地域医療に貢献してきた病院が母体であり、敷地内に病院や介護老人保健施設が併設されている。法人の理事長である医師の診察がある他、管理者をはじめ3人の看護職を配置するなど医療との連携が充実しており、入居者や家族に安心感を与えている。また、有資格者が多く、医療・介護連携のもと「自分の受けたいケアの提供」をモットーに優しく穏やかな生活が送れるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所は、地域社会に貢献するために病院を母体法人として開設された。病院が隣接し医療的な連携が密接に取れていることが利用者の安心につながっている。事業所の職員には看護師や介護福祉士などの有資格者が多く、介護等の高い技術のサービスを提供するよう努めている。利用者への排泄支援やリハビリテーションケア、オーラルケアにも力を入れている。職員はみな明るく、互いのコミュニケーションが良くとれていて、落ち着いた環境でサービス提供をしており、共に過ごす利用者の笑い声が絶えない。地域の文化祭に利用者や職員の共同制作の作品を毎年展示したり、民生委員や地域福祉委員などの協力もあり、地域との関係の継続が保たれている。職員はここで生活をする利用者に尊敬の心を持ちながら、利用者が安心して楽しく暮らせるように支援を行っており、利用者、職員共に笑顔があふれる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設以来職員は温かさや優しさを念頭に利用者へ接している。理念を基に職員が考えた年度目標を事務所内に掲示するとともに、毎月のスタッフ会議の中で振り返りながら実践につなげている。	これまでは基本理念のほかに年度目標を定めていたが、昨年度から今の基本理念に立ち返り、職員全員で改めて見つめ直し考える取り組みをしている。スタッフ会議や各委員会などで話し合い利用者の立場に立ったサービスの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや文化祭、小中学校の運動会等に出かけたり、隣接する老人保健施設の行事に参加している。また、近所の方から野菜の差し入れがあるなど、日頃から良好な関係を築いている。	地域の文化祭や体育祭、小学校の運動会、夏祭りなどに参加している。隣接の病院に訪れた知人が朝早く野菜を差し入れに立ち寄ることもある。近隣住民や元利用者家族が畑づくりやボランティアとして事業所に長い間関わっており、地域との交流は日常的に行われている。マイチャレンジで中学生との交流も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	文化祭等の地域行事参加の際、地域の人々に施設の説明や相談に応じている。また、中学生の体験学習を受け入れ、少しでも多くの人に認知症について理解してもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーは固定されているが、夕方や土曜日の他、年2回のイベント時に会議の日程を合わせ、家族や地域の代表が参加しやすい工夫をしている。出された意見や要望をサービス向上に活かせるよう努めている。	開催時間を考慮するなどメンバーが会議に参加し易いよう工夫している。家族や市担当職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地域福祉委員等の出席のもと事業所の運営状況等を報告し話し合っている。開催時間を以前より早め、会議参加者が利用者の生活を実際に見ることができるようにしたところ、より踏み込んだ意見も増え、運営向上につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市担当者と地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの状況を報告している。申請手続き等の際には、窓口で日頃の状況を伝えるとともに、研修や法制度の情報や相談に対する助言をいただいている。	運営推進会議に市担当職員と地域包括支援センター職員が毎回出席しており事業所の状況について伝えている。事業所職員が市役所に出向き必要な情報を聞いたり相談するなど市との連携もスムーズに行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備し、職員はそれを十分に理解し身体拘束をしないケアに努めている。日常の会話においては、利用者が人生の先輩であることを心がけ、敬意をもった丁寧な言葉かけに注意している。日中は玄関の施錠をせず、状況に合わせた見守りにより対応している。	職員にはマニュアルをはじめ身体拘束廃止委員会、スタッフ会議、外部研修などで身体拘束をしないケアの徹底を図っている。運営推進会議にも議題に上げ事業所をあげて取り組んでいる。職員同士も注意し合ったり拘束の回避に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は穏やかに安定した気持ちで支援できるように日常のケア場面やスタッフ会議で問題点等、情報を共有して防止に努めている。		

グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度を理解しており、ご家族の面会のときに、成年後見制度についての相談があった場合は必要な情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時読み合わせをしながらその都度、質問や疑問点を伺い、充分に時間をかけて説明し、理解・納得を得た上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見要望は、日頃接している中で丁寧に聞くことを心がけている。家族は毎月利用料支払いや面会に来ており、ホームでの生活情報を伝えるとともに、意見要望等を聞いている。運営推進会議の議事録を家族に配布するなど、意見の出やすい雰囲気づくりに努めている。	利用者については入浴時や職員との外出時などに話しやすい状況を作っている。家族には、面会や支払いの来所時などに個別にじっくり話を聞くようにしている。できるものはすぐ対応し、他はスタッフ会議、主任者会議などで検討の上回答し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤続年数が長い職員が多く、コミュニケーションがとれ、管理者には、いつでも話しやすい環境になっている。行事企画や個別ケアについての意見が多く出され、運営に反映させている。法人役員による個別面談も行っている。	主任や管理者は日常業務の中やスタッフ会議などで職員の意見要望などに耳を傾けている。また、今年度から年1回の法人役員による職員全員の個別面談を導入し、より意見の吸い上げに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の診察援助を通じて代表者の医師とは良い関係が保たれている。管理者や職員個々の長所を活かしながら働けるよう配慮し、職員の悩みやストレスに気を配っている。また、職員は資格取得や研修参加に積極的である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設している病院の安全対策や感染対策等の院内研修と一緒に参加している。また、積極的に外部研修にも参加している。外部研修に参加した後はスタッフ会議で伝達研修会をして共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	栃木県グループホーム協会主催の研修会その他、意見交流会等にも参加している。また、市内の他ホームと連絡を取り、情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでの時期に、家族だけでなく本人を主体として向き合い、本人の不安が少なくなるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、要望、悩みなど時間をかけ、しっかりと聴き、家族等の気持ちを受け止めながらより良い関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	望まれるサービスを優先しながら、状況に応じて適切なアドバイスが出来るよう話し合いをしている。また、併設の老健や居宅介護支援事業所との連携により、スムーズな対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の知恵(地域の風習、郷土料理、昔の遊び)を授かり、日々の生活に取り入れることで喜びや楽しみを分かち合い良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の要望や抱えている悩みなどを受け止め、本人の生活を共に支援していけるよう、対等な関係を築いていくよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や地域の友人の来訪を大切に、馴染みの関係が途切れないよう継続支援に努めている。地域の行事に出かけた際には、昔住んでいたところに立ち寄るなどの支援をしている。	知人や友人などの訪問時にはお茶を出すなどくつろげる環境づくりを心掛けている。地元の馴染みの美容師が髪のカットに訪れたり、地域の文化祭や運動会、暮れのホームでの餅つきなどでも地域の馴染みの人との交流が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、食事の席などは配置に気をつけている。また誕生日などの時には全員でお祝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等の場合は、職員が面会に行き、本人や家族に声をかけている。退所される時も、抱えている悩みや不安等、よく聞くように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ができるだけ意思表明しやすいよう、トイレや入浴時等個別ケア時に、利用者の声に耳を傾けている。日頃の生活の中で何気ない会話や仕草を大切に、思いや意向の把握に努めている。	入浴や部屋で利用者と1対1になった時など他人を気にしないリラックスした状況での会話などから、思いや意向をくみ取るように努めている。会話が困難な場合でも家族から聞き取ったり、日々の中で機会をとらえ動作や表情を観察する中で察するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や入居前訪問時に、プライバシーを配慮しつつ、サービス利用にいたった経緯や生活環境について本人や家族から詳しく聞くよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は入居者の変化を見逃さないよう一人ひとりの生活パターンや心身状態の把握に努めている。また、職員が情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりを全職員で把握し、日頃の生活状況について意見交換ができるようにしている。ケアサービス記録表や家族の意見要望・ケア実行表等の記録を基に介護計画を作成し、急な変更が生じた時には、随時変更を行っている。	職員は出勤時必ずケア記録表に目を通し利用者の状況を全員が把握し共有した上で、サービス担当者会議にかけ現状に即した介護計画を作っている。法人内の理学療法士も活用しリハビリにも取り組んでいる。見直しは半年から1年毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの行動や変化を具体的に記録し送りやスタッフ会議にて情報を共有し計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の老健施設、デイケアの行事に参加したり、病院を受診したり、その時のニーズに応じて柔軟な支援を臨機応変に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催の文化祭や体育祭等の行事に参加し、地域の人とのかわりを持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が、隣接する法人の協力医をかかりつけ医としている。気分転換を兼ねながら、月1回介護計画書や日頃の状況記録を持参して、受診に向いている。緊急時にも対応できるよう連携し安心して医療を受けられるよう支援している。	法人の病院が隣接し協力医院となっており、利用者全員がかかりつけ医としている。同病院から入居となる利用者が多くほとんど主治医が継続している。月1回全員が受診に出かけている。毎日夜中にホームから利用者の状態について病院に報告を入れており連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者をはじめ3人の看護職員を配置しており、日常生活や緊急時の対応は十分指導し、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	母体となっている病院の入院の他、他病院へ入院する場合においても、病院と家族のやり取りが円滑に行くよう連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応指針を整備し、利用開始前に本人・家族と話し合い、ホームとしての対応方針を説明している。実際に重度化した場合には、できるだけ職員が対応し、最終的には主治医の判断により入院等、家族の意向を尊重しながら対応している。	重度化や終末期方針については事業所としてできる対応を本人・家族に伝え話し合っている。重度化が進み終末期を迎えた場合には本人・家族の要望を踏まえながらぎりぎりまでホームでの生活を支え、その後は家族を交えて更に話し合い、主治医の判断を基に対応を決定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議やミーティングの時に緊急時の対応マニュアルを再確認したり、対応について話し合いを行っている。また、母体の病院に毎日、夜間連絡している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署指導のもと、夜間想定避難訓練を実施している。職員は消火器・警報装置使用等の指導を受けている。緊急通報システムにより自動的に職員・関係機関等に連絡がいくように設定し、運営推進会議のメンバーには訓練に参加してもらうなど協力体制を築いている。	年2回消防署立ち合いの夜間想定を含めた災害訓練を実施している。うち2回目は年度末に運営推進会議に合わせて実施し、メンバーも参加することで地域の協力体制の強化を図っている。また毎月スタッフ会議の後に、出火場所や場面を変え職員が交代で火災通報の想定訓練を行っている。	想定を超える大規模な災害が現実発生していることを踏まえ、今後の安心のため、2回の訓練以外に管理者・職員で知恵を出し合い、いろいろな災害を想定して避難誘導の訓練を定期的に組み込まれるような取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、「さん」付けで呼ぶことを基本としながら、利用者の意向によって昔なじみの呼び方などを行っている。トイレ誘導はさり気ない声かけを心がけるとともに、入浴、着替え時などにはドアの開閉には特に注意している。	職員は常に、目上当たる利用者に敬意を持って接し、言葉遣いも含めて自分が嫌と思うことはしないように気を付け、してほしいことは何かを考えながら支援している。一律に接するのではなく一人一人の気持ちに寄り添いながら毎日が楽しく過ごせるよう笑顔で接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の準備、買い物、ドライブなど利用者の希望、意見を聞きながら日々の生活の中に自然に自己決定の出来る機会を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、本人の望んでいるペースで自由にのんびり過ごせるよう心がけ、利用者のリズムに配慮した支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、地域的美容師、理容師が来訪し、利用者の希望とおりにカットしてもらっている。また、利用者本人が着替えの洋服を選ぶように支援し、フロアに姿見を置いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は職員の手作りで、昼・夜食は業者による配食に手を加えている。外食も年数回取り入れたり、誕生日には特別なメニューとしている。利用者は協力し合いながら食器の後片付けをしている。車椅子利用者にはリハビリの一環として食事用の椅子に移動するよう支援している。	昼食・夕食は業者の配食サービスの食材、朝食は調理師免許を持つ職員の完全手作りである。利用者の誕生日当日は全員特別食とし、外食や手作りの特別メニューなども楽しんでいる。配食のメニューは主食以外を購入しているため、希望で昼は主食を麺にすることもある。職員も一緒に食事を楽しんでいる。利用者は野菜の下拵えや後片付け、コップ洗いなど、できることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量・体重を記録し、一人ひとりの健康状態を把握している。必要に応じ医師や管理栄養士に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	研修等により職員は口腔ケアの重要性を理解している。毎食後、一人ひとりに口腔ケアの呼びかけを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンをチェック表により把握し、早めの声かけ誘導を行い、トイレでの排泄支援に努めている。職員の排泄に関する技術向上により、オムツが外れたり、自立排泄が可能になった利用者もいる。	チェック表で個々の排泄パターンを把握し、きめ細かな観察を心掛け、時間を見て声掛けトイレに誘導している。事業所をあげて排泄介助技術の向上に努めており、スキルが上がることで介助がスムーズになっている。リハビリパンツとパットと、下着にパットのみ利用者が半々となるなど自立に向けた支援の効果が出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便のリズムを把握し栄養のバランス、水分補給に気をつけながら、適度に運動もを行い、身体機能が衰えないよう対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回以上実施し、午後の時間に支援している。入浴時のコミュニケーションを大切にし、介助や見守りが適切に出来るよう、シャワーを2ヶ所に設置している。拒否のある利用者には時間をかけて声掛けするなどの工夫をしている。季節に応じて、柚子を浮かべて香りを楽しむなどの支援もしている。	入浴は週2回以上で、本人のペースに合わせたゆとりのある時間配分をしている。利用者は広めの湯船でゆったりと職員と会話を楽しみながら入浴している。入浴剤や季節のゆず湯、しょうぶ湯も取り入れている。利用者によっては床屋の日の入浴後はスポーツドリンクでのどを潤すなど快適に過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	薬に頼らず夜間睡眠がとれるよう、日中活動的な時間を多く持ち、本人にとって自然なリズムが生まれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルに管理していて、薬の目的や副作用、用法、用量についていつでも確認できる。また、本人の状態の経過や変化等に関することを細かく記録するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来ることに配慮しながら(掃除、洗濯干し、洗濯物たたみ)役割分担をし、張りのある生活が送れるよう支援している。また、大きな貼り絵を全員で作成達成感を味わってもらったりとレクリエーションも気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出や、月1回買い物・ドライブに出かけている。家族や地域の連絡委員の協力により、大型ショッピングセンターで買い物や外食を楽しむ支援もしている。できるだけ散歩を頻繁に行い、気分転換と筋力の維持に繋がるような支援にも努めている。	事業所が高台にあり見晴らしのいい環境で、草花や樹木も多く、法人敷地内の散歩や病院受診に出かける際、外気浴を行うことができる。外食や買い物、地域行事への参加なども家族や地域福祉委員の協力を得て行っている。利用者によっては家族の協力で盆正月に自宅で外泊している。	

グループホームあじさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行くときには財布を預け好きなものを買っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をしたいとの希望がある場合、電話をかけ取り次いでいる。娘さんと携帯電話で連絡を取り合ったり、お孫さんから手紙が届く利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは大小山など四季折々の景色が眺められ楽しめる。天井や梁は白く明るく、床暖房を整備し、温度・湿度も適切に管理している。壁には地域の文化祭に出品した習字やちぎり絵、カレンダーなどを飾り、ソファーはくつろぎの場となるよう配置にも工夫している。	リビングは木の温もりがある板張りで床暖房を設置している。壁や天井は白が基調で室内は明るい。加湿器や換気扇によって室内の空気を管理し、においや湿気にも気を使っている。壁には利用者の習字や職員と共作のちぎり絵など力作が飾られており、温かい雰囲気でも過ごることができる。大きな窓から山や町の景色が眺められる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室(和室)とリビングの間に、引き戸の間仕切りをして分けたり、ソファーの位置を変えたり、状況に応じて工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓は半窓と掃き出しになっており、エアコン・カーテン・洗面台・ベッドが備え付けられている。タンスの上や窓際には写真や好みの飾り物を置いたり、壁にはわかりやすいカレンダーを飾るなど、安心して居心地よく過ごせるよう支援している。	居室にはカレンダーや冷蔵庫など、利用者の好みの物が置けるよう支援している。収納スペースとして大きな押し入れがある。部屋によっては窓から遠方の景色を見ることができる。利用者が職員のサポートを得ながらモップ掛けを日課として行ったり、ゆったりと趣味の編み物を楽しむなど、居室で自分らしい生活を送ることができるよう働きかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口やテーブル席等に、わかりやすく名前を表示している。ホーム内はバリアフリーで手すりも多く設置されている他、和室には洗濯物干し場を設置し、自主的に行えるよう工夫している。		